ひとり

岐阜県岐阜市　中原賢治

「ただいま」を
「おかえり」が
味噌汁の匂いがする
台所には妻が
ありきたりの日常をつくる

「ただいま」が
「おかえり」を
蛍光灯が消えかける
台所でひとりになった僕は
ありきたりを懐かしむ

「さようなら」を
「さようなら」が
今日だけの限定を迎える
妻との思い出が遠いところへ
死は一度しかない別れ

「いってきます」を
「いってらっしゃい」が
優しく抱きしめる朝
誰もいない家で
手をふる人は誰だろう

「まだかよ」が
「まだまだだよ」を
妻がかくれんぼを始める
僕は鬼さんかよと
空は光を抱いている

「鬼さんこちら」を
「あの世はどこだい」が
吹きこぼれるインスタントラーメンに
僕はじゅわじゅわと
溶き卵が広がる鍋を見つめる